

1. 包括的支援推進員（福祉のキューピット）とは

別紙1のとおり、3役を担う専従職を各高齢者相談室（地域包括支援センター）に配置し、生活支援サービスの創出や、マッチング機能の充実に取り組むことで、高齢者相談室（地域包括支援センター）の機能強化を図る。

2. 生活支援コーディネーター業務における主な活動内容

- ・買い物支援の整理・検討
- ・広報誌作成による周知活動
- ・通いの場の立ち上げ
- ・福祉・介護の駐車場（別紙2）
- ・配食サービスのマップを作成（別紙3）
- ・地域資源の一覧を作成（別紙4）
- ・介護タクシー一覧表作成（別紙5）

3. 生活支援コーディネーター業務で見つけた課題

	課題	まとめ
中央	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化 ・困りごとを多世代へ伝える場がない ・一部の人に役割が集中している 	①担い手の高齢化，後継者不足 ②地域のつながりや関係性の希薄化 ③多世代での連携，関係を築く場がない ④介護サービスや通いの場等の地域資源の情報が不足
天応 吉浦	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道が多い ・人のつながりが希薄化 	
昭和	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場が不足している ・ごみ出し支援がない 	
宮原 警固屋	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスの不足 ・ペットが心配で支援を受けられない 	
東部	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係性の希薄化 ・若い世代との交流の場がない ・企業とのつながりが持っていない 	
川尻 安浦	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と関わる機会を持っていない ・見守り隊等の活動の立ち上げにつながらない 	
安芸灘	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化 ・通いの場が減少 ・多世代での連携の必要性の周知不足 	
音戸 倉橋	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化，過疎化 ・地域のつながりが希薄化 ・介護サービスの不足 	

4. 今後の活動

- ① 若い世代に対しても、通いの場やサロン等の活動内容を周知し、関心を高めて、参加につなげるよう努める。
- ② 多世代交流を目的としたお茶会等のイベントを企画していく。
- ③ 地域ケア会議等の地域関係者が集まる場で、地域資源に関する情報の聞き取りを行い、必要な情報は、くれ福祉のお役立ちサイト（しっとってクレ）に掲載する。